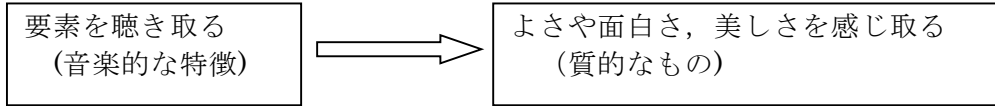


1 音楽科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 指導するねらいや手立てを明確にし、児童が感性を高め、思考・判断し・表現する一連の過程の重視

- ・ [共通事項] の新設・・・すべての音楽活動の支えとする。



(2) 音楽科の学習指導と学習評価との関係の明確化 (学力の三要素を踏まえた学習指導と学習評価)

- ・ 「音楽的な感受や表現の工夫」「鑑賞の能力」これらに関する評価に課題を感じる傾向がみられる。
- ・ 学力の三要素と関連している  
知識, 技能, 思考力, 判断力, 表現力等 主体的に学習に取り組む態度

(3) 「音楽づくり」と「鑑賞」の学習指導の質的充実

- ・ つくって表現(歌唱・器楽における創意工夫を含む)  
音楽づくり(創作の学習活動の焦点化)

(4) 「日本のうた」と「鑑賞」の学習指導の充実

- ・ 歌唱共通教材で取り扱う必修曲数の増加
- ・ 「我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた」
- ・ 「和楽器の音楽を含めた我が国の音楽, 郷土の音楽諸外国に伝わる民謡など」

2 小学校学習指導要領実施状況調査 (平成 25 年第 6 学年を対象に実施)

(1) 今回の改定の基本方針に上げられている事項

- ・ 思考力・判断力・表現力等の育成
- ・ 我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等の育成

(2) 音声を伴うペーパーテスト調査問題(音楽)の構成

A 冊子	1 歌唱 共通教材「ふるさと」
	2 器楽 器楽アンサンブル(新曲)
	3 音楽づくり
	4 読譜, 階名の聴き取り, 用語の意味等

B 冊子	1 リズム, 拍子, 記号の聴き取り や用語の意味等 世界各国の音楽と我が国の音楽
	2 我が国の音楽(箏と尺八の曲)
	3 西洋音楽(木管楽器と弦楽器による曲) 教師質問調査, 児童質問紙調査 (第 6 学年)

○ 調査結果より

- ・ 曲想の変化と音楽の仕組みを結び付けて聴くことや, 世界各国の音楽の中から我が国の音楽を聴き分けること等については, 相当数の児童ができています。
- ・ 楽曲の特徴を言葉で適切に表すことや, 音楽表現に対する思いや意図を言葉で適切に表すこと, 我が国の音楽の特徴を捉えて聴くこと等については, 課題があると考えられる。

(3) 指導上の改善点

○ 思考・判断し, 表現する過程を重視した指導の一層の充実

- ・ 音楽の特徴を感じ取りながら, 思いや意図をもって表現したり, 楽曲の特徴や演奏のよさをとらえて味わって聴いたりする, 主体的・創造的な学習をより一層充実することが重要。
- ・ その際, 児童の協同的な学習を促し, 音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実することが重要。

○ 音楽的な特徴をとらえる指導の改善・充実

- ・ 音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、音楽活動を通して用語や記号を理解して楽譜を読んだりするなどして、聴覚と視覚を関わらせて音楽的な特徴をとらえる指導を充実することが重要。
- ・ 音符、休符、記号や用語については、表現及び鑑賞の活動の中で、実際の音と関連させてその意味や働きを理解したり、音符、休符、記号や用語を活用する場面を設けたりするなどして、児童が実感をもって理解できるように、指導方法を工夫することが重要。
- ・ 無理なく読譜に慣れることができるように、指導方法を工夫することが重要。

○ 音楽づくり・鑑賞の指導の改善・充実

- ・ 「音楽の授業で、音楽をつくるのが好き」と回答した児童は約5割である。また、音楽づくりの指導内容について「児童が身に付けやすい」と回答した教師は約2割である。  
このようなことも踏まえ、音楽づくりについては、児童がつくる過程を楽しみながら実際にいろいろな音楽表現を試し、互いの表現のよさを交流するなどして、音楽をつくる喜びを味わうことができるように、指導方法を工夫することが重要である。
- ・ 鑑賞については、想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて言葉で適切に表す指導を一層充実し、楽曲全体を味わって聴くことができるように、指導方法を工夫することが重要。

○ 我が国の音楽の指導の改善・工夫

- ・ 我が国や郷土の音楽に対して、児童の興味・関心を高めるには、和楽器に親しむなど体験活動を充実することが重要。
- ・ 我が国の音楽の特徴を感じ取りやすい音楽を教材として扱い、必要に応じて、諸外国の音楽と比較するなどして、我が国の音楽の特徴をとらえて聴くことができるようにし、音楽の多様性や音楽文化の理解につながる素地を養うようにすることが重要。
- ・ 唱歌やわらべうた、民謡などの日本のうたについては、児童がそのよさを感じ取って表現できるよう、歌詞の内容や音楽を形づくっている要素を手掛かりに、楽曲に対する理解を深めるとともに、曲にふさわしい自然な歌い方で歌うことができるように、指導方法を工夫することが重要。

3 音楽科における自分や集団の考えを発展させる学び合いの工夫

協働的な学習

- ・ 教師が子どもたちの学びの見通しをもつ。
- ・ 感じ取ったことを(イメージ)と音楽的な特徴との関連を図る。
- ・ 意見を交換することと、実際に歌唱すること、実際に楽曲を聴いて想像したことを言葉で表現する。
- ・ 話し合いの中に楽譜や音楽からのヒントをもらい、実感させる。互いのグループの意見やよさを認めていくように促す。他の意見を共感させるために比較する。

まとめ

研究協議：小学校音楽の授業実践に見られる成果、及び課題とその改善策

- ・ 共通事項の絞り込みをすることで、児童に共通事項の何を教えていくのかが不明瞭。子供たちがわかる共通事項を教えるだけではよくない。目標に合わせて共通事項の選択を行うことが重要。
- ・ 例えば強弱や速度の共通事項では、楽曲全体の中で知覚させたい部分を明確にする。作曲家の意図をしっかりと伝えることが大切。
- ・ 評価について子供たちの見取りと想定がきちんとされているか。題材を通して板書から子供たちの見取りがしっかりと意識してできているか。
- ・ 学習内容の関連性を児童が分かること。可視化することが大切だが可視化したものが見通しをもったものになっているのか。ねらいをしっかりと教師側が押さえることが大切。
- ・ 長調、短調の見分け方。定着させるために計画的に指導することが大切。
- ・ 資質能力を大切にした指導が今後の学習指導要領改訂の指針。